



上／富士山南陵工業団地の「富士山南陵の森 フォレストセ이버プロジェクト」で地域の方々と一緒に苗木を植えた植樹祭の様子。(撮影：2009年5月)

下／苗木を植えてから5年後の富士山南陵の森。苗木は木へと成長したがこれはまだ途中経過であり、この先更に多様な植物がこの地に根付いていくと鈴木は話してくれた。

輝け! けんせつ小町

# 緑の技術者

## 鈴木菜々子

大成建設株式会社 環境本部  
サステナブル・ソリューション部  
生物多様性・アセスメント室 課長代理



「けんせつ小町」は、  
日建連が定めた建設業で  
活躍する女性の愛称です。



# my Beginning

# 人と自然を共生させる

私が建設業界に入った理由

幼い頃から自然が好きで、これまで全国各地で植生調査を行ってきた今号の小町。自然を守る開発に携わりたくと建設業界へ足を進める。働きながら大学院に通い、環境分野の専門性を深め「緑の専門家」として新しいプロジェクトを計画している。

### 自然を守る仕事

幼少期をハワイで過ごした鈴木は、毎日海で泳ぎ、木登りをしたりと自然が身近にある生活を送っていた。慣れ親しんだ自然を守りたいという思いから、大学では森林生態学を専攻する。

「学生時代は、研究室の先生や仲間と共に長期休暇の度に全国各地へ赴きどんな植物が生息しているのか調査していました」

屋久島や伊豆大島、タイのマングローブ林の調査も行うことができた有意義な時間だったと話す鈴木だが、環境アセスメントの調査アルバイトがきっかけで違和感が生まれてくる。

「環境アセスメントの調査対象は建設予定地です。貴重な植物を見つけても報告で終わり、守れないことにもどかしさを覚えました」

調査の仕事では本心にやりたい自然の保護ができないと感じた鈴木は計画やものづくりに取り組める建設業界に目を向けて就職活動を行う。

「建設予定の段階から環境に配慮した開発を提案して、自然を守りたいと思ったんです」

### 新しい勉強の日々

入社一年目は研修として、設計本部で建築設備の基礎を学んだ。

「今まで図面を見たこともなければ、描いたこともありません。『照明計画をしてみよう』と言われて図面を描いた時は、縮尺が分からず3次元の照明器具を配置したこともあります(笑)」

建設業についてゼロから学び知識を蓄えていった鈴木は、エンジニアリング本部を経て、入社三年目にエコロジー本部に異動となる。ここから「緑の専門家」としての一步を踏み出す。

### 経験・知識を活かした仕事

鈴木は入社四年目で、「十年かけて森をつくる」という今までにない環境に配慮した、静岡県富士山南陵工業団地の開発計画に携わる。

「学生時代の経験が初めて仕事で活かせることに喜びで胸がいっぱいになりました」

開発予定地の生態系を調べ、適切なアプローチや提案を行った鈴木は、仕事の醍醐味と同時に、自分自身への物足りなさも感じていた。

「勉強不足と感じる面もあったので、更に知見を広げるため大学院に通い始めました」

my style

学生時代から山登りをして自然に触れることが好きです。都内で働いていると四季の変化をあまり感じることができないので、季節の変わり目は今なにが咲いているのか見るようにしています。仕事で自然のなかを案内することもあるので、知識だけでなく自分の目で見たものをちゃんと伝えたいという想いもあります。趣味が仕事にも繋がっていますね。



去年の9月には長野県にある蓼科山で紅葉の散策を行った。



右/現在担当している馬事公苑整備工事で保存する森林。地域の人々との交流拠点となる予定である。  
上/同じ部署の渡邊次長と打ち合わせをする際は様々な植物の名前が飛び交う。  
下/部署の皆さん。左から4番目が植田室長。



my Growing

私が建設業界で学んだこと

突き詰めたら結果に繋がる

仕事に応用できそうなことを学ぶと決めた鈴木は、『都市公園緑地の生物多様性の評価』というテーマで研究を行う。  
「当時の上司も賛成してくれましたので、有給休暇をうまく使いながら通いました。仕事が終わった後や休日に調査や考察をしましたが、好きなことなので全く苦になりませんでした」  
やりたいことに挑戦させてくれる社風のおかげだと鈴木は振り返るが、強い意志と向上心があるからこそできることだ。

今までにないものを創り出す

今年で入社十三年目の鈴木は現在、環境本部に所属し、都内で馬事公苑整備工事に携わっている。地域貢献や環境配慮、以前より自然に親しめる場所にしたいという想いで、伐採した木を様々なカタチで活用するプロジェクト等を担当している。そのなかでは、保全する森林を拠点として地域の人々との交流を促すプログラムの企画・提案も行っている。

「環境配慮は今、どんな案件でも必要とされています。計画地の環境に相応しい緑化計画や環境保全対策等を提案し、全体を俯瞰して最適解を見つけてるのが私の仕事。その進め方や最終形は決まっていないので、常に新しいことに挑戦できるのが楽しいです」

新しいアイデアを出すために日々情報収集をして、いろいろなものに触れるようにしているという鈴木。そのやる気を会社がバックアップする制度もある。  
「提案を出しても私一人ではカタチにできません。その分野の外部の専門家と連携をとって一緒にプロジェクトを進めたいと思った時、申請が認められれば予算をつけてもらうことができます。やりたいことを後押ししてくれるので本当に恵まれた環境です」

鈴木はこの制度を使って『森コンシェルジュ』という新しい緑地計画技術の開発も行っている。  
「地域に適した植物の種類を容易に選択でき、植生遷移の考え方を活用して様々な構造の緑地を計画することができ、その場で結果をお見せできるのもポイントです」

新しい技術開発とその活用手法にまで展開していく鈴木は、働き方改革にも繋がる。  
**竣工からがはじまり**

環境分野で多岐にわたり活躍している鈴木だが、今後のキャリアについてはこう話す。  
「あまり先まで計画し過ぎないようにしています。女性活躍に関する研修で、様々な業界の第一線で働く女性のお話を聞く機会が何度ありましたが、皆さん口を揃えて『なるようにしかならないから先を心配するな』とおっしゃっていたんです。Facebook COOのシエリル・サンドバーグ氏の本でも『LEAN I



「環境本部は緑の専門家である鈴木ほか、音や水、風環境、エネルギー、土壌地下水汚染等の専門知識を持ったスペシャリストで構成されています。社内にここまで植物に関する知識を持った人はいないので、鈴木は重要な人材です」(埴田室長)

N (一歩踏み出すこと、挑戦すること)と書いてあり、とても共感しました。当室の埴田室長はけんせつ小町の先輩として活躍されており、その姿を見るととても励みになります」

建設業界では主流とはいえない環境保全の仕事をもっと広く浸透させたいと語る鈴木は、樹木医をはじめ様々な資格の取得にも励んでいる。

「緑は創ったときが始まりで、そこからどんな生態系が豊かになり美しくなって完成に向かっていく。竣工した案件には、必ず家族と一緒にその始まりを見に行っています。数年後に行くと変化が見られるのがまた楽しいですね」

自然の魅力を一人でも多くの人に知ってもらうために、「緑の専門家」として様々な仕掛けを提案していく鈴木。新しいことに挑戦する行動力と企画力は、自然を守るだけでなく多くの人の心を豊かにしていくに違いない。

## profile



すずき・ななこ ● 1982年、埼玉県生まれ。大学で森林生態学を専攻し、2005年、大成建設㈱に入社。2007年よりエコロジー本部(現・環境本部)に配属され、環境分野の仕事に携わる。2012年、働きながら大学院に通いはじめ修士課程を修了。樹木医、一級造園施工管理士等の植栽に関する資格も多く取得し、現在は「緑の専門家」として馬事公苑整備工事をはじめ複数の案件を担当している。

my **Growing** 私が建設業界で学んだこと